

## 1. はじめに

2002年（平成14年）常葉学園大学造形学部（現在：常葉大学造形学部）開設にあたり、新学部準備のための設置経費で購入した作品群を収蔵している。教育研究に活用する目的で、現代美術の版画作品とアーティストブック、ポスター、北欧のデザイナーズチェア、中国の掛け軸と日本の浮世絵のレプリカを当時の大規模な予算をかけて購入した。造形学部は、小笠郡菊川町（現在：菊川市）で30年余続いた常葉学園短期大学美術デザイン科を母体として改組され、開学当初は常葉学園大学菊川校舎として菊川の地で教育研究活動を始めた。その際、同敷地内に故木宮栄彦学園長が、美術を学ぶ学生に本物を鑑賞させたいと開設された常葉美術館があり、それら作品群は収蔵庫に間借りして保管をしていた。2005年（平成17年）には、造形学部の静岡瀬名校舎への移転が決まり、それまで使用していた教材、施設、人員は菊川の地を後に瀬名校舎へ大掛かりな引越しをした。作品群は、保管場所が見当つかず、収蔵庫に保管されたままとなってしまった。学部のカリキュラムの変更で教育的な利用の必然性が出てきたこと、また購入当時の教員の退任などで作品群の存在が薄れてきていることを危惧し、2013年（平成25年）に、瀬名校舎に仮保管場所を確保し、すべての作品を瀬名校舎に移動した。本稿は、作品群の伝承の基盤作りと教育的利用の可能性と実践の考察を研究目的として本稿をまとめて行く。地道で、時間の掛かる研究ゆえ順次まとめた内容を紀要に掲載する。

## 2. 収蔵に関しての経緯

選定作業は、造形学部設立前の常葉学園短期大学美術デザイン科教員が担当した。日本美術が専門の日比野秀男先生は、全て複製の中国画、日本と中国の巻物、浮世絵、プロダクトデザインが専門の清水正義先生（退任）は北欧のデザイナーズチェア、洋画が専門の坂田和之先生（退任）と現代美術が専門の蜂谷充志は現代美術の版画、アーティストブック、ポスターをそれぞれの専門性に於いて発案選定した。購入は、紀伊国屋が各業者との仲介を行い事務方で処理をしたため、正確な購入金額は現場の私には知らされなかったが、総体で2千500万円であった。先ず選定主旨を明確にし、リストアップにあたった。ここでいう選定の大きな理由はいうまでもなく、研究資産としての意味と教材としての活用にあった。手順は以下の通りである。

主旨決定→リストアップ→主旨、予算を考慮し再リストアップ→現物確認と精査→第三者と共に適正価格の確認→最終リスト決定、提出→業者との事務処理→現物授受。上記の中の第三者による外部評価には、当時富山県立美術館杉野学芸課長に委嘱し、実物の真贋および適正評価価格等を議論し最終選定を菊川校舎3号館にて行った。

## 3. 選定主旨

中国の南画、中国と日本の巻物、浮世絵（北斎、歌麿、広重など）は、すべて複製で、博物館学等での取り扱いの実習を目的として、日比野先生が選定した。北欧のデザイナーズチェアは、ハンス・J・ウェグナーのデザインを受けて正規生産された代表作の7脚は、プロダクト系の学生の家具教材として、清水先生が選定した。版画作品、アーティストブック、ポスターは、現代美術作品としておよそ1950年代以降の物とし、世界を俯瞰できるようドイツ、フランス、ロシア、アメリカ、日本の作家作品を選んだ。版画作品は、一点の直筆作品と比較して安価でありながら、作家の直接的な関与が見られ思想も反映している。主にアートを学ぶ学生に版画技法の模範、現代美術の変遷を体感できる教材ととして、坂田先生と蜂谷が選定した。選定した作品群は、全世界の美術館に収蔵されているものである。

その後、いくつかの作品の寄贈を受け、コレクションを追加している。

## 4. 収蔵品の活用と展開

これまで、2002年（平成14年）に常葉美術館、2014年（平成26年）に鴨江アートセンターの2回の展覧会で一般公開したが、当初予定の教材として活用する機会がなく、ほぼ10年間収蔵庫で眠っていた。平成21年の造形学部の新カリキュラムに伴い、アート表現コース版画の授業で活用を試みるようになった。一連の作品群を改めて確認するにつれ、造形学部の専門性に於いて大変有効な研究資財となる可能性を再確認し、新生常葉大学の共同研究課題に位置づけ、平成23年度より検証と整備を始めた。将来にわたり造形学部での教育研究活動ができるよう基盤作りを目指している。

専門大学での教育的利用の研究と、管理保管という立場の責任とシステムの明確化する目的を目指し



活用事例

2002年 常葉美術館での展覧会。図録なし。

2007年 フェルケール博物館でのポスター展。  
(寄贈を受けたポスター)

2014年 浜松鴨江アートセンターでの展覧会。  
図録なし。

その他、専門教員による任意の授業利用。

(版画、平面制作、ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン) 常葉大学内に展示。

これらの研究資産(作品群)の基礎調査とアーカイブ化を目的に、研究を進めさせていただける平成26年度常葉大学共同研究の機会をいただいた。現代美術の作家の版画を中心とした貴重な芸術作品コレクションの作調査を行い、デジタルアーカイブしてデジタルコンテンツ資料を作成する。さらに、現物とともに大学教育の実践教育なアプローチを研究を遂行を目指している。収蔵品の中には既に80年前に制作されたものもあり、文化財として大切なものとなるだろう。それらを専門の学部の管理のもと、将来にわたり造形学部での教育研究活動ができるようにしたい。

教育現場での活用を考えると、作品制作に関わる模範、歴史的な視点での美術史の研究はもちろんのこと、鑑賞教育の研究、デジタル化してのアーカイブの可能性の研究、それにまつわる技術研究などが考えられる。美術史的に確定した評価は、今後も下がることはない。これらの研究をオリジナルを利用して行える将来にわたる優位性は計り知れない。

- 1、作品の保護研究
- 2、作品鑑賞をより自由な形に 作家研究
- 3、作品(展覧困難)によっては有効的な鑑賞法
- 4、逆説的な意味で、実物のすばらしさの発見  
(触覚 臭覚)
- 5、デジタル・デバイスの利用
- 6、芸術家(専門家)による監修とコンテンツ制作

## 5. 作品目録

### 常葉大学造形学部 コレクション目録

アーティスト	タイトル	材 質	寸 法	制作年
1 ジャン・アルプ	 「たがをはめ直された太陽」	木版 20 点 (内オリジナル 1 点)	47.0×38.3 (シート) 50.7×40.0×6.0 (ケース)	1966
2 マルセル・デュシャン	 「大ガラスと関連作品 (第 1 巻、第 2 巻)」	木箱、アクリルケース、ハードカバー、 「The large grass and relates works vol.1 (293p no.47)」最終頁にサイン入り 「The Large grass and related works vol.2 no.42」最終頁にサイン入り	42.4×25.7×6.0 (1 巻) 42.2×25.6×3.8 (2 巻) 43.3×26.7×5.0 (2 巻目のケース)	1967 (第 1 巻) 1968 (第 2 巻)
3 マルセル・デュシャン	 「愛の後」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
4 マルセル・デュシャン	 「選ばれた細部、 アングルにならって」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
5 マルセル・デュシャン	 「大ガラス」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
6 マルセル・デュシャン	 「濾過器」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
7 マルセル・デュシャン	 「花嫁」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
8 マルセル・デュシャン	 「9つの雄の鋳型」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
9 マルセル・デュシャン	 「裸にされた花嫁…」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
10 マルセル・デュシャン	 「選ばれた細部、 クールベにならって 1」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
11 マルセル・デュシャン	 「水車」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
12 マルセル・デュシャン	 「選ばれた細部、クラナッハ および〈休演〉にならって」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968

アーティスト	タイトル	材 質	寸 法	制作年
13 マルセル・デュシャン	「眼科医の証人」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
14 マルセル・デュシャン	「選ばれた細部、 アングルにならってII」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
15 マルセル・デュシャン	「完成された大ガラス」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
16 マルセル・デュシャン	「選ばれた細部、 ロダンにならって」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
17 マルセル・デュシャン	「王と女王」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
18 マルセル・デュシャン	「アウワー燈」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
19 マルセル・デュシャン	「高所の掲示」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
20 マルセル・デュシャン	「チョコレート魔砕器」	エッチング ed.150	41.9×50.2 シートサイズ 版上サインあり	1968
21 エル・リッツレー	「声のために」	タイプグラフィック 16点	18.8×13.4 (本のサイズ) 20.6×14.8×2.1 (ケース)	1923
22 ジャン・フォートリエ	「女の大きなトルソ」	カラーエッチング ed.26/50	66.0×50.0 (シートサイズ)	1968
23 ジャン・カルズー	「イルミネーション (挿画本)」	エッチング 30点 ed.68/105	37.1×28.9 (シートサイズ) 40.7×30.7×4.8 (ケース)	1969
24 ヨーゼフ・ボイズ	「シャーマン・ドラム」	エッチング ed.30/70	38.0×28.4 (シートサイズ)	1984
25 マン・レイ	「大人のアルファベット」	レイヨグラフ (額入) 1点 イラスト 37点 ed.119/150	23.8×29.9 (レイヨグラフシート) 37.9×28.3 (ページサイズ) 40.1×30.5×4.2 (ケース)	1970

アーティスト	タイトル	材 質	寸 法	制作年
26 エルスワース・ケリー	 「レッド・オレンジ・オーバー・ブラック」	シルクスクリーン ed.153/250	63.4×76.2 (シートサイズ)	1970
27 ジョージ・シーガル	 「赤いシャツの男」	エッチング、アクアチント AP ed.2/14	99.0×70.9 (シートサイズ) 55.5×62.5 (イメージサイズ)	1975
28 ジャスパー・ジョーンズ	 「フィズル」	エッチング 1セット (35点組) ed.234/250	33.3×25.4 34.4×26.8×5.9 (ケース)	1976
29 サム・フランシス 全 28 人	 「1セント・ライフ」	リトグラフ 62点	41.5×30.4 42.7×30.7×4.3 (ケース)	1964
30 クリスト他 約 72 人	 「S.M.S. (Shit Must Stop)」	全6集：写真、カード、 エッチング、カセットテープ等の マルチプル 73点	35.0×19.5× (3.0～5.0)	1968
31 長谷川潔	 「奇術」	ポアント・セーシュ (手彩色)	25.1×18.8 (シートサイズ) 8.0×11.7 (イメージサイズ)	1925
32 吉原治良	 「黒地に白の円」	シルクスクリーン ed.87/100	75.2×56.3 (シートサイズ) 49.5×61.0 (イメージサイズ)	1969
33 飯田善國	 「クロマトポイエマ」	シルクスクリーン1セット (22点)	75.0×55.0	1972
34 草間弥生	 「かぼちゃと果物」	シルクスクリーン ed.148/160	33.5×42.9 (シートサイズ) 33.0×24.0 (イメージサイズ)	1993
35 若林奮	 「52記」	エッチング、 エングレーピング1セット (52点)	38.5×28.5 (シートサイズ) 39.7×30.2×3.7 (ケース)	1995
36 河口龍夫	 「関係-時間・ 時のフロッタージュ」	ゼログラム1セット (87点) ed.5+4 AP	35.0×25.5 38.3×34.2×6.6 (ケース)	1998
37 辰野登恵子	 「"May-27-96"」	エッチング、アクアチント ed.28/60	60.5×60.5 (イメージサイズ) 82.5×75.0 (シートサイズ)	1996
38 辰野登恵子	 「"June-19-96"」	エッチング、アクアチント ed.28/60	60.5×60.5 (イメージサイズ) 82.5×75.0 (シートサイズ)	1996

アーティスト	タイトル	材 質	寸 法	制作年
39 辰野登恵子	「"July-2-96"」	エッチング、アクアチント ed.28/60	60.5×60.5 (イメージサイズ) 82.5×75.0 (シートサイズ)	1996
40 辰野登恵子	「"July-16-96"」	エッチング、 アクアチント ed.28/60	60.5×60.5 (イメージサイズ) 82.5×75.0 (シートサイズ)	1996
41 辰野登恵子	「"July-16-96"」	エッチング、 アクアチント ed.28/60	60.5×60.5 (イメージサイズ) 82.5×75.0 (シートサイズ)	1996
マージ財団 オリジナルポスター				
42 アルベルト・ジャコメティ	「デッサンII」	リトグラフ	77.5×45	1978
43 アントニ・タビエス	「インク画とコラージュ」	リトグラフ	66×50	1953
44 イヴ・クライン	「カルル・フランケール画廊」	リトグラフ	92.5×54.8	1973
45 エドゥアルド・チリーダ	「Compeonato del mundo 250c.c.」	リトグラフ、シルクスクリーン	70×49.5	1986
46 サム・フランシス	「空の詩 シリーズ」	オリジナルリトグラフ	86×56	1986
47 サム・フランシス	「空の詩 シリーズ」	オリジナルリトグラフ	86×56	1986
48 サム・フランシス	「サン＝ポール」	オリジナルリトグラフ	89.5×54	1983
49 サルバドール・ダリ	「フィゲラス劇場美術館」	リトグラフ	73×52	1974
50 ジャン・デュビュッフェ	「グラン・パレ」	リトグラフ	69.5×52.5	1973
51 ジャン・デュビュッフェ	「装飾美術館」	リトグラフ	72×50	1960

アーティスト	タイトル	材 質	寸 法	制作年
52 ジャン・デュビュッフェ	 「飛ぶ鳥」	リトグラフ	68×42.5	1973
53 ピエール・スーラージュ	 「ダカール」	木版 20 点 (内オリジナル 1 点)	47.0×38.3 (シート) 50.7×40.0×6.0 (ケース)	1966
54 モーリス・エステーヴ	 「Peintures recetes」	木版 20 点 (内オリジナル 1 点)		1966
55 ルフィーノ・タマヨ	 「200 年間のアメリカの発展」	木版 20 点 (内オリジナル 1 点)		1966
56 ハンス・J・ウェグナー	「バレットチェア PP モブラー社」	メープル、チェリー、パイン/チーク		1953
57 ハンス・J・ウェグナー	「スリーレグドシェルチェア カールハンセン&サン荘」	ビーチ、ウォールナット、背・座ファブリック、レザー		1963
58 ハンス・J・ウェグナー	「Y チェア カールハンセン&サン荘」	ビーチ、アッシュ、オーク、チェリー、ウォールナット、 座：ペーパーコード		1950
59 ハンス・J・ウェグナー	「ピーコックチェア PP モブラー社」	アッシュ (チーク)、座：ペーパーコード		1947
60 ハンス・J・ウェグナー	「チャイニーズチェア PP モブラー社」	ビーチ、アッシュ、オーク、チェリー、ウォールナット、 座：ペーパーコード		1945
61 ハンス・J・ウェグナー	「ラウンドチェア (ザチェア) PP モブラー社」	ビーチ、アッシュ、オーク、チェリー、ウォールナット、 座：ペーパーコード		1949
62 ハンス・J・ウェグナー	「アームチェア PP モブラー社」	ビーチ、アッシュ、オーク、座：ペーパーコード		1974
63 ハンス・J・ウェグナー	「バレットチェア PP モブラー社」	メープル、チェリー、パイン/チーク		1953
64 ハンス・J・ウェグナー	「スリーレグドシェルチェア カールハンセン&サン荘」	ビーチ、ウォールナット、背・座ファブリック、レザー		1963
65 掛け軸	「主として中国画 17 点」	複製		—
66 巻物	「日本と中国画の巻物 3 点」	複製		—
67 版画	「日本版画の(広重、歌麿、北斎など) 8 点」	複製		—
68 凸版印刷株式会社 済州大学校教員作品	「BEST 100 JAPANESE POSTERS, 1945-1989 9 点」	復刻印刷		1990
69 康東彦	「海女 woman diver」	ドローイング		2009
70 金昉瀨	「Link-08」	ステンレス		2009
71 金昉瀨	「花のイメージ」	アクリル/キャンバス		2010
72 朴聖珍	「石垣の上の星」	アクリル/キャンバス		2010
73 姜珉錫	「体の記憶」	韓紙		2010
74 郭生明	「Island by night」	彩色/牡紙		2009
75 孫一森	「済州の海」	油/キャンバス		2010
76 チャイヨン	「不明」	パネル		2004
77 チャイヨン	「不明」	パネル		2004



## 6. おわりに

デバイスが向上したとはいえ、地道な作業と手間がかかる研究作業である。学部での教育研究は創作作業の指導を中心と考えには揺るぎはないが、まとめ方（ポートフォリオ）、保存の方法（アーカイブ）、展覧（エキシビション）のローリングをソフトとハードの両面をバランスよく教育研究することで、社会における芸術分野の専門知識を持った人材を育成できるのではないだろうか。高度なスキルとマンパワーを保持する専門機関の常葉大学の存在は、美術館とは違った意味で地域社会の文化と芸術教育の拠点となる可能性を秘めている。大学が芸術作品を収蔵することは、社会的な使命を背負うことになる。専門の研究教育機関を「知の記録組織」というように、記録のみでない利用を考えると、教育資産としての有効活用という考えも出てくる。常葉美術館（他館、他組織）との連携して、鑑賞と保存並びに教育的な利用法を研究の可能性を探ることもできる。これは、常葉の共有資産であること公にし、学園の芸術分野の質をより一層ためることにつながるのではなかろうか。

### 参考文献

総務省（2012）「デジタルアーカイブの構築・連携のためのためのガイドライン」,  
<[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000153595.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000153595.pdf)> 2012年3月26日,総務省.

島崎信（2003）『デンマーク デザインの国—豊かな暮らしを創る人と造形』学芸出版社.

エドワード・ルーシー＝スミス（1986）

『現代美術の流れ—1945年以降の美術運動—』岡田降彦・水沢勉 訳,PARCO出版.

美術出版編集部編（1993）『現代芸術事典—アールデコから新表現主義まで—』美術出版社.

美術出版編集部・木村要一・田村敦子編（1984）『現代美術事典—アンフォルメルからニューペインティングまで』中原佑介監修,美術出版社.